

# 「保険でより良い歯科医療を」宮城の会ニュース

第5号 2020年12月9日

「保険でより良い歯科医療を」宮城の会事務局発行（宮城県保険医協会内）  
（電話）022-265-1667（FAX）022-265-0576（E-mail）miyagi-hok@doc-net.or.jp



## ☆「宮城の会」活動に関するニュースについて

歯科医療を受ける側と提供する側が集う場として、また、食や口から見えてくる社会問題を共に考える場として、「保険でより良い歯科医療を」宮城の会（略称：「宮城の会」）を昨年10月に結成しました。会の活動を賛同団体・個人の方々や関心のある方にお知らせするために、ニュースを発行しています。ぜひ、「宮城の会」の存在を多くの方に広めて頂き、活動に関するご提案・ご意見等お寄せ下さい。

## ☆老人福祉施設協議会へ口腔ケア関連著書等を寄贈しました

例年11月8日（イイハ=いい歯）にちなんだ企画（歯科健康相談や口臭測定、歯科技工体験など市民を対象としたオープン形式）を、みやぎ生協、宮城民医連、宮城県保険医協会と歯科技工士会の協力で開催してきました。今年度は対面型オープン企画は行わずに、コロナ禍の中で歯科の重要性を発信する企画を「宮城の会」として進めてきました。



寄贈当日は、「宮城の会」より、阿部吉男、井上博之両代表世話人と事務局4名で宮城県老人福祉施設協議会、仙台市老人福祉施設協議会の順に訪問しました。宮城県老人福祉施設協議会は木村伸裕副会長、村上秀一事務局長、仙台市老人福祉施設協議会は穴戸衛副会長、事務局が対応しました。「宮城の会」より、寄贈内容（『「噛む」からはじめる「食育の新常識」よだれ先生の「超実践講義」高齢者&介護ケア編』50冊、歯科ミニリーフ『続けてますか？お口のケア』

1,000部、クイズハガキ200部）と趣旨について説明し、介護施設現場でのコロナウイルス感染症の影響や対応について懇談しました。

県老人福祉施設協議会の木村副会長は、「施設によっては歯科衛生士さん等の訪問をストップして、職員が利用者の口腔ケアをすることもあった」と状況を説明し、施設でコロナウイルス感染者を出さない為に、職員には旅行や外食など控えて欲しいと再々呼びかけ、利用者の家族の面会にはリモート形式にするなどで対応したと話されました。

仙台市老人福祉施設協議会の穴戸副会長は、介護施設現場でのコロナウイルス感染症の影響について、施設の利用者が家族と面会出来ないことで不安になった例や、マスクやアルコール等の衛生材料の販売価格が一時は通常の3倍にまで高騰し、その分の補填・補助が来年度も継続されるかどうか未定となっている事に不安があると話しました。歯科の口腔ケアについては「食べられないと活力が無くなる。歯科医師・歯科衛生士の協力のもと口腔ケアの重要性を発信する事は大事だと思っている」と話し、「寄贈頂いた資料を介護施設の職員に配布したり、学習会の場で活用させていただく」と謝辞が述べられました。

「宮城の会」として、今後も歯科の重要性について様々な職種や市民の理解を広げる活動を進めることにしています。

